

懇談会の様子

地区毎に異なる取組課題について、各地区の住民や関係者、支援者、行政などが一緒に話し合いを重ね、課題解決に向けた取組について検討を進めています。

今後は、復旧・復興にかかる情報やアイデアを共有しながら課題解決に向けた方策を検討し、住民の想いが反映された復興の取組やプロセスについて取りまとめていきます。

懇談会の進め方 (イメージ)

- ①参加の場づくり
- ②主要課題の解決方策の検討

- ③主要課題の解決方策の具体化
- ④計画の実行に向けた取組

地域コミュニティの再生

将来の災害への備え

生活環境の再生

次の出水期への備え

なりわいの再生

地区(課題)別の協議体

地域の魅力創出

新たなまちづくりの取組



◇お問い合わせ◇

人吉市役所 復興局 復興支援課
〒868-8601 熊本県人吉市下城本町 1578-1
Tel:0966-22-2111(内線:8893) Fax:0966-24-7869
E-mail:fukkousien@hitoyoshi.kumamoto.jp

これらに関する情報は、市ホームページにも掲載しています。ホームページをご覧になれない人はお問い合わせください。

地区別懇談会だより

Vol.1

中心市街地

～みんなで取り組む、人吉市の復興まちづくり～

『地区別懇談会（第1回・第2回）』を開催しました

甚大な被害や治水対策による影響が大きいなど、地区でまとまって問題解決に取り組む必要性の高い地区を「重点地区」として位置づけ、それぞれの地区ごとに「地区別懇談会」で話し合いを進めています。

中心市街地の対象地区は、九日町、七日町、五日町、二日町、鍛冶屋町、大工町、紺屋町、上新町、下新町、鶴田町、北泉田町、南泉田町です。

◆第1回地区別懇談会 4月17日(土) 18時

- 1 復興計画、復興まちづくり計画についての説明
 - ・復興計画等の概要説明
 - ・重点地区の考え方と地区別懇談会の進め方
 - ・これまでの校区别座談会の概要
- 2 地区ごとの話し合いと全体共有
 - ・顔合わせ、自己紹介(想いや困り事など)
 - ・次回日程や宿題、連絡体制や参加者の声かけ

◆第2回地区別懇談会 5月11日(火) 18時

- 1 地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明
 - ・前回懇談会の振り返りと情報提供
 - ・治水対策とまちづくり・避難の考え方
 - ・復興まちづくりに係る各種支援制度や事例の紹介
- 2 地区ごとの話し合いと全体共有
 - ・出水期に向けた避難等のあり方
 - ・復興まちづくりへの具体的な課題と方向性
 - ・今後の進め方、次回日程調整、連絡体制の確認



人吉東小学校体育館で開催しました。次ページより、話し合いの結果(概要)を掲載しています。

懇談会の進め方について ～復興まちづくり計画の策定に向けて～

地区別懇談会での検討をもとに、具体的な復興まちづくりの取組を「復興まちづくり計画」として取りまとめていきます。

◆地区別懇談会の参加方法

- ・対象地区にお住まいの方や勤務されている方など、どなたでも参加できます。
- ※可能な範囲で、継続的な話し合いに参加いただけます。
- ・参加申込は随時受け付けておりますので、本紙面末尾の復興支援課までお問合せください。
- 多くの方のご参加をお待ちしております。

◆地区別懇談会の進め方

- ・4～10月までの間に、概ね月1回(合計8回程度)の開催を予定しています。

次回の開催予定: **第3回 6月15日(火) 18時00分より**

次回のテーマ予定: 復興まちづくりの課題と方向性について

会場: 人吉東小学校体育館

参加
募集中



◇復興まちづくり計画とは

- ・復興計画を実現するために取り組むべき内容を検討・整理したものです。
- ・特に被害の大きい特定地域(重点地区)などを対象に、各地域の具体的な計画づくりを行います。
- ・住民主役の計画づくり(策定主体は主に住民)に対して、行政が支援し、計画策定をめざします。
- ・計画期間は、令和4～9年度の概ね6年間。(令和3年度からの一部実施も想定)

中心市街地の『復興まちづくりへの想い』について

～第1回懇談会の意見概要～

※ 第1回地区別懇談会における参加者の意見であり、決まった内容や事実確認をした内容ではありません。

項目		復興まちづくりへの思いや困り事等について
避難対策	避難場所・道路	九日町 - 山田川の氾濫スピードが速かった。国道445号線は川のようにになっていた。 - 次に避難が必要になったときに、どこに避難してよいかわからない。 - 避難所の人吉東小学校では、毛布もなく、朝食・昼食の段取りなどもできていなかった。 七日町 五日町 二日町 - また出水期が来るため、まずは避難（逃げる方法）をどうするかだけでも考えておく必要がある。 - 町内の高いビル（ホテル、マンションなど）に避難場所としての利用を交渉したり、市で協定を結んで避難ビルに指定してはどうか。 - 町内会館に逃げたが、膝まで浸かって人吉東小学校に移動した。 - 人吉東小学校の避難スペースは限りがあり、感染症対策、車いす等体の不自由な人への対応も必要。 - 人吉高校が避難所となったが、遠くなり心配。 大工町 鍛冶屋町 - 町内に垂直避難できる高い建物が無い。 →九州電力の鍛冶屋社宅に相談してみても。 紺屋町 - 毎年警報が出ているため、慣れがあった。いかに危険を伝えるかが重要。 - 昔から「ダン」と言われている場所が数段あり、大工町辺りは大丈夫という神話もあった。 - 山田川の水位の上がり方がこれまでとは違った。川を見る場所で判断が変わるため注意が必要。 - 朝方の水位で油断して逃げ遅れた。（自宅2Fに避難、屋根づたいに避難、ボートで救出等） - 紺屋町は2つの川に挟まれており、逃げ遅れると避難できない。 - 公民館が浸かった。まちなかに垂直避難できる場所や避難できる公園が必要。 - 指定避難所の人吉東小学校には何も無く、携帯もつながらなかったため、情報が得られなかった。 上新町 下新町 鶴田町 北泉田町 南泉田町 - 安否確認に時間を有したため、避難場所を統一しておく必要がある。 - 人吉西小学校、球磨工業高校に避難した方、中小企業大学に車で避難した方もいる。 - 屋上等への避難も検討すべき。 - 住宅地の道路は狭いため、リアカー等で避難支援を行った。 - 道路上のマンホールが外れている場所があった。
	避難誘導・要支援者対策	九日町 - 防災無線が聞こえなかった。身内からの電話で気がついた。・避難準備はしていたが出遅れた。 - ダム放水のニュースを見て車を移動しようと考えたが、すぐに増水してきた。 - 民生委員だけでは要支援者の避難支援はできない。共助が必要。 - 隣の人に避難の声掛けもできない状況になった。 （家同士を結ぶ）非常階段を配備するなど、地域で避難経路や方法を考える必要がある。 - 高齢者等の避難誘導はまちなかの高層ビルに連れて行くしかないのでは。 七・五・二日町 - 防災無線は全く聞こえなかった。（→今年度中に市から戸別受信機を配布予定） 大工町 鍛冶屋町 - 最初は町内会館に避難するよう申し合わせていたのがためになった。最初から人吉東小学校に避難してしまうと、誰がどこに行ったかわからなくなる。 - キーパーソンを立てて誰が誰を見るか確認していた。日頃のコミュニティの大切さを実感した。 - 町内会で災害に関する会合を開き、皆で避難の方法やルートを再確認したい。 - 町内会で避難訓練をしたい。雨の日を実施する、高齢者や子どもを連れて歩く、車で搬送するなど、実際の条件に近い形で実施した方が良いのでは。 紺屋町 - 市からのアナウンス等が足りなかった。 - 近所への声かけをするにも自分のことで精いっぱいになる。 5時半に消防団からの声かけがあり、人吉高校まで避難した。 上新町 下新町 鶴田町 北泉田町 南泉田町 - 油断があったことで、避難が遅れた。 - コミュニティFMなどで情報を周知することで情報共有が円滑になるのではないかな。 - 町内に自分だけで避難しないよう呼びかけ、役員で分担して避難誘導に当たった。 - お寺に避難し、朝夜炊き出しを行った。日頃から炊き出し訓練も実施していた。 - 被災後、上新町では防災部を正式に設立した。・阪神・淡路大震災を事例に餅つき大会等を実施し、地域の支えあいやコミュニティづくりを通して、防災に活かしている。

項目		復興まちづくりへの思いや困り事等について
住まい再建・生業再建	住まい再建・生業再建・復興まちづくり	九日町 - まちに人がいない。賑わいづくりのために、まちなかに住宅、災害公営住宅をつくってほしい。 - まちなかに空き地が増えている。市が買い上げ、市営住宅や店舗などを建てるの良いのでは。 - できれば九日町で再建したいが、高齢であり、また水害にあう不安もある。建てるとしても土地の高上げをお願いしたい。 - 復興のビジョンや計画は早く知らせてほしい。再建後に区画整理等でまた動いてと言われても困る。 - 再建する際は1階をピロティにしたい。・次の住まいは2階以上が良い。 - なりわいを再開させた方もいれば、迷っている方もいる。元は専門店が豊富に建ち並んでいた。 - まちに愛着があり、生業再建は地域のためでもあるが、自分たちのためでもある。 - 国道445号線の今後の計画が知りたい。商店街は車中心になっている。国道を市道に格下げし、歩道を広げて“歩いて楽しいまち”にしたい。 七日町 五日町 二日町 - 再建は資金面に余裕があるところが早い。保険の加入は大切。 - 再建支援金の利用期間を伸ばせないか。公的な盛土助成や代替地のあっせん等はないのか。 - 浸水想定区域図（想定最大規模）が配られたが、今後も災害の恐れがあると住む場所をどうすべきか考えないといけない。 - 町内に買い物をする場所がなくなった。川沿いの店舗の多くは再建をどうするか決められていない。 - なりわい補助金は対応が遅すぎる。住宅併用だと割合が低く、店舗の修復費用は負担が大きい。 - 店舗の被害には、エレベータの故障など部分的な被害もある。店舗の再建支援策が少ない。 - 新型コロナウィルスの影響もあり、今後の商売の在り方を考えたい。 - 解体すべきところが進んでおらず、スピード感がない。土地利用をどのようにするつもりなのか。今のペースでいくと、まちから人が離れていく一方。 - 集会所として利用していた若宮神社の修復支援を依頼しているが、まだ取り掛かっておらず、町内の会合ができない。 大工町 鍛冶屋町 - ハード面の施策がどうなるのか心配。住民が生活再建に向かえるよう、環境づくりをしてほしい。 - 個人の事情等で再建スピードに差があるが、みなさんまちなかに戻りたいと思っている。 - 高齢者の持ち家の解体跡地等の対応について、行政のサポートがあると良い。 - まちづくりの一步として、顔が見える小さい単位で、住民が中心になり考えていくべき。 - 再建が進む前に景観条例のアピールをしていくことも必要。 - 周辺の町と一体的に中心市街地の再生、まちづくりを考えたい。 - 解体が進み空き地が増えているが、有効活用につなげられると良い。災害公営住宅はまちなかにつくってはどうか。高齢者が多いため、歩いて行ける範囲で生活が成り立つよう低層部に買い物ができる店や病院もあると、生活しやすい。・空いたところに移って来てもらえるようアピールしては。 - 誰がどこに住んでいるかわからないと、まちづくりはできない。昔に比べ共助の精神が希薄になったが、町内会は大事で、今回も被災後に炊き出しをした。 紺屋町 - 紺屋町はこれまでに何度も浸かっているが、また浸かると立ち直れない。どんなまちづくりをしていくか。 - 高齢化が進んでおり、紺屋町には子どもが少なくなった。まちなかなのに、これでいいのかな。 - 集合住宅をつくって、子育て世代を呼びたい。1Fが店舗の災害公営住宅ができるとよい。 - まちなかには小さな公園くらいしかない。コンテナマルシェには子どもが集まっている。 - まちなかには個人の駐車場しかないため、まちなか駐車場があるとよい。 - 紺屋町には約280軒あるが、半分はテナント。住民の方は店を貸して、上に住んでいる方が多い。 - コロナ前から地価が下がっていた。・いろんな店がないといけない。 - 間口が狭く、接道要件を満たさないところが多く、再建に課題がある。 - 区画整理などで道路付けを良くしてほしい。使いたい人に使ってもらう必要がある。 - みんながどこに住んでいるかわからない。町内会の連絡網の再整理が必要。公民館は公費解体かどうか未定で、集まる場所や資金がない。 上・下新町 鶴田町 北・南泉田町 - 可能であれば、安全な場所で再建したいが、家族は現地再建を希望している（補修中）。 - まちづくりの方向性について知りたい。

～第2回懇談会の意見概要～

中心市街地

- 区画整理などで、空いているところを使える人が使えるようにしたい
- まちなみの再生を考えたい
- 夜の営業時間中の観光客・来訪者等の避難対応も考えておく必要がある

人吉東小学校

- 高齢者、障がい者の避難スペースが狭い
- 体育館のバリアフリー化が必要

人吉高校

- 行きづらい場所のため早めの避難が必要
- 車での避難ルート（渋滞回避のため、複数のルートが必要）

出された意見

- 避難場所
- 避難ルート
- 避難ビルの候補
- ※避難開始が遅れた場合の緊急的な垂直避難場所、事前に協定等の申し合わせが必要
- 復興まちづくりの課題
- 地区や場所
- 道路や河川など

凡例

- 町界
- (被災)自治公民館
- 避難所等
- 道路幅員
- 1 15m以上
- 2 6m以上 15m未満
- 3 4m以上 6m未満
- 4 4m未満
- 都市公園
- 土地利用現況(道路用地のみ)
- 地すべり調査予定
- 急傾斜地調査予定
- 土石流調査予定
- 土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)
- 土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

R2年7月豪雨 実績浸水深

0.5m未満の区域
0.5m以上 ~ 1.0m未満
1.0m以上 ~ 2.0m未満
2.0m以上 ~ 3.0m未満
3.0m以上 ~ 4.0m未満
4.0m以上 ~ 5.0m未満
5.0m以上 ~ 6.0m未満
6.0m以上 ~ 7.0m未満
7.0m以上 ~ 8.0m未満
8.0以上の区域

想定最大規模(L2) 浸水想定区域

中心市街地の具体的な『出水期に向けた避難等のあり方』や『復興まち

づくりへの課題や方向性』について ～第2回懇談会の意見概要～

※ 第2回地区別懇談会における参加者の意見であり、決まった内容や事実確認をした内容ではありません。

項目		出水期に向けた避難等のあり方
避難等のあり方	避難場所	九日町 ・高齢者は遠い場所への避難は難しいため、近くにある大きなホテルや丈夫な建物に垂直避難できると助かるのでは。マンションの高層階や空き部屋、渡り廊下も解放できると良い。 ・3～4F 建てのコミュニティセンターが町内にあると安心できる。収容人数、食糧等の備蓄も十分な場所を町毎に複数確保したい。管理をどうするかも考えたい。
		七日町 五日町 二日町 ・車は浸水すると水が引いた後の活動に支障が出るので、できるだけ車で避難しては。→人吉高校へ ・車で避難が困難で徒歩避難する場合は、人吉東小学校が近い。体育館は空調を入れてもらったが、階段しかないため、足腰の弱い高齢者は校舎 1 階の狭いスペースしかない。 ・避難が遅れた場合などの緊急避難先として、周辺のホテルや病院など堅牢な 2 階建て以上の建物に垂直避難ができるよう、予め相談しておく必要がある。
		大工町 鍛冶屋町 ・町内会館を集合場所にして、高齢者などは車に乗り合わせて人吉東小学校に避難する。 ・逃げ遅れたときや長距離の移動が難しい場合に、複数の浸水しない避難場所の確保が必要。→施設によっては、鍵が開いていない時間帯の対応が課題。一箇所には避難できないため、複数必要。 ・個人の建物（店舗等）でも近所の方の避難場所として申し合わせている。
		紺屋町 ・自宅は 2 階鉄骨造なので垂直避難で対応した。・車だけ高台に持って行って自宅に避難した。
		下新町 南泉田町 ・避難場所は人吉東小学校がよいが、体育館がピロティの 2 階なのでスロープを設置してほしい。 ・上新町からは一時避難で線路向こう高台の「観音寺」へ避難。・人吉高校には行きづらい。
	避難ルート	九日町 ・日中、夜中どちらの場合も想定した避難行動の準備が必要。どこに避難するかを事前に把握する。
		七日町 五日町 二日町 ・昨年の水害時は避難ルートが冠水したため、早めの避難行動開始が必要である。 ・車で避難する場合は、混雑を避けるため複数のルートを設定する。 ・徒歩での避難ルートは、町内の主要道路を設定する。
		大工町 鍛冶屋町 ・鍛冶屋町と大工町の間に通り抜けができない箇所がある。 ・町内でまち歩きをして、危険箇所等の確認をしたい。
		紺屋町 ・球磨川より山田川の方が 30 分前に水が出た。・市房ダム操作の情報を早く流してほしい。
		下新町 南泉田町 ・昨年はほぼ全員徒歩で避難した。上・下新町からは人吉東小学校が近い。 ・人吉高校に行くルートは、道路が入り組んでおり難しい。 ・下新町では、町内会長がリーダーシップをとって、町内会独自の防災計画・避難方法を確立している。
避難誘導・要支援者対策	避難誘導	九日町 ・動ける人が近所の高齢者の安否確認等も行くと良い（町単位で確認できるシステムを）。 ・2F 避難からのご近所救助は難しいので、導線を確保する方法を考えたい。 ・昨年水害時は球磨川を見て避難したが、避難の目安や、早い段階での情報提供がほしい。 ・全員の災害経験等をまとめると、避難の対策につながるのでは。・避難訓練は夜の想定で行うべき。
		七日町 五日町 二日町 ・昨年は、「うちは浸からない」という思い込みから、避難した世帯が少なかった。避難のタイミングが難しい。 ・各町で、ある程度の要援護者は把握しているが、いざ緊急の際、だれが支援するのか決まっていない。 ・車を持たない高齢者や足腰の悪い方などを把握しておき、車で避難する場合は、できるだけ乗り合わせて避難する。介護を要する方や寝たきりの方は、前もって施設等に移っていただくことも考えられる。
		大工町 鍛冶屋町 ・昨年水害時は、高齢者を訪問して回ったが、なかなか起きてもらえず困った。 ・街区の中の方は、騒ぎの音が聞こえず、声掛けをしたことで状況に気付かれた。 ・視覚障害、身体障害の方が 10 名程度おり、避難には支援が必要。
		紺屋町 ・紺屋町は夜のまちなので、お店の営業時間中の避難対策、観光客・来訪者の対応を考えておく必要がある（大雨の恐れがあれば店を閉める等）。店舗経営者への周知、戸別受信機の店舗への配備、エリアメールの活用、夜も浸水深（実績）が見えるように標示する等。
		下新町 南泉田町 ・防災無線やラジオは一方通行。双方（発信する側と受取る側）が連絡を取れるようなコミュニケーション方法が必要。・避難について情報不足。気象情報を事前にキャッチして伝達することが大事。 ・高齢者の避難の支援方法を検討する必要がある。どこに誰がどんな状態にいるのかを共有しておく。
	要支援者対策	

項目		復興まちづくりへの具体的な課題や方向性について
復興まちづくりへの課題や方向性	住まい再建・生業再建	九日町 ・浸水対策として、自宅の嵩上げを考えている。再建の際の嵩上げ条件は行政が知っているのだろう。 ・更地が増えてきたので、この際、地盤を高い位置に整備してはどうか。 ・再建の悩み：自宅をどうするか、駐車場にするか、店舗を 1F にするべきか 2F にするべきか等
		大工町 鍛冶屋町 ・水害保険の加入の有無で再建スピードに差が出るため、保険をかけておくことは重要。
		下新町 南泉田町 ・また水害が来る可能性があるのに、個人の判断で現地で再建して良いのかわからない。 ・高齢者が多い地域で先々の資金調達ができないため再建できない人が多い。
		九日町 ・道路を拡張をすると、商店街やそぞろ歩きできるなど九日町らしさがなくなる。現在あるものを活用しながら避難場所を設けることが大事。
		七・五・二日町 ・市内には、シラス地質の高台もある。水害だけでなく、地震も想定した備えが必要である。 ・5 月 30 日の自主避難訓練を活用して、地域での課題などチェックしていく。
	復興まちづくり	大工町 鍛冶屋町 ・それぞれに事情が異なるため、共同での再建やまちなみづくりは難しいかもしれないが、「発想を合わせる」ことで何か実現できないか？
		紺屋町 ・紺屋町を、人が集える場所に再生できるかどうか。 ・何らか区画整理をし、使ってもらえる人に使ってほしい。早く具体的に示していかないと空洞化してしまう。 ・元々駐車場が多かったが、一か所にないのでわかりづらい。立体駐車場を整備できると避難場所にもなって良い。
		下新町 南泉田町 ・下新町、上新町は市街地にも近く、いろんな施設も隣接しており生活利便性が高い。住宅地として整備してほしい。 ・まちづくりの話、土地活用を優先して進めていく必要がある。
		九日町 ・また水害が来る不安感しかない。掘削の対応状況や治水に関する対策等の情報を詳しく知りたい。国や県による説明の場がほしい。 ・今年出水期への対応を知りたい。進捗と、どの程度の効果が見込めるのか、説明してほしい。 ・球磨川の掘削や管理の徹底をお願いしたい。
		大工町 鍛冶屋町 ・河川掘削をしっかりと実施してほしい。今回は、支流（山田川）から水が溢れたが、支流のぶつかるところが手つかずのため不安。 ・川辺川ダムができたなら浸水しない想定で良いのか？ 雨の降る場所によって違うのでは。 ・ダムができる 10 年の間に、開発等で山の保水能力が変わるのでは。
	治水・土砂対策	下新町 南泉田町 ・川の土砂で地区のかさ上げができないか？ ・川に堆積している土砂を撤去してほしい。浸水対策に効果があるのでは。もしくは、堤防を高くしてほしい。部分的にでも高くしてはどうか。 ・川底の起点がどこなのか、水位がわかりづらい。国土交通省にデータを開示してほしい。